

議長定例記者会見 会見録

日時：令和8年4月10日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭発言

2 質疑項目

○役員改選について

1 冒頭発言

(議長) 皆さんおはようございます。ただ今から4月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。新年度を迎えまして、初めての議長定例記者会見となります。昨年度は、皆さま方には県議会の活動等に係る報道について、大変お世話になりました。本年度も引き続きよろしくお願いを申し上げます。本日は、発表事項はございませんが、2月定例会議を終えての感想などについて、少し申し上げたいと思います。2月定例会議では、やはり令和8年度の当初予算が最も重要な案件の一つであったと思います。県民の命と尊厳を守る「安全・安心な暮らしの実現」や「子どもの健やかな成長を支える環境づくり」、未来を拓く「時代の変化と潮流を捉えた産業振興」や「観光振興と三重の魅力のプロモーション」等のため、限られた財源が効率的・効果的に配分されているかなどといった観点から、本会議や委員会等において慎重かつ詳細に審査し、3月23日に可決いたしました。この審査の過程では、さまざまな意見を申し上げておりますので、県当局におかれましては、これらを踏まえ、しっかりと執行していただきたいと思っております。また、エネルギー・食料品等の物価高騰の影響を受けている生活者や事業者に対する支援等を実施するための補正予算もございました。これについては、緊急を要することから先議することとし、迅速かつ慎重な審査の上、2月27日に可決したところでございます。このほかのさまざまな議案についても、本会議や委員会等において活発な議論や慎重な審査を行い、今後の取り組みの方向性や進め方について意見や要望を申し上げるなど、議会としての役割をしっかりと果たせたものと考えております。また、令和6年5月から「伊勢茶の振興に関する条例策定調査特別委員会」において調査・検討を進められ、今定例会議に上程をされました「伊勢茶に親しむ暮らし推進条例案」を全会一致で可決したことも、大変意義深いことだと思っております。さらに、「豊かで美しい三重の海づくり調査特別委員会」で取りまとめられました「豊かで美しく親しみのある海づくりの推進を求める意見書案」についても全会一致で可決し、森野副議長、山崎委員長、廣副委員長により関係省庁へ提出したほか、特別委員会から知事に対して提言も行ったところでございます。二つの特別委員会において進められてきた調査・検討が、このような成果として形になり、大変喜ばしく思っております。

す。私からは以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

2 質疑項目

○役員改選について

(記者) 幹事社です。よろしくお願い致します。幹事社からすいません、私、この4月に県政にまた14年ぶりに戻ってきたというのでちょっと浦島太郎状態。森野さんが1期目、服部さん多分2期目だった頃以来でございます。よろしくお願い致します。幹事社からは特にありませんので各社、もしご質問ありましたら、どうぞお願いします。

(記者) 来月、役員改選を迎える見通しでございます。改めての確認ですけれども、議長として、役員改選どのように臨まれるのか。議長職として、どうなさるかですね。

(議長) 分かりました。

(記者) お願いします。

(議長) 実際に私も昨年の5月の改選時に記者会見の中でも申し上げました。そしてまた、いろいろと定例会見の中でもお話をさせていただいたわけなんです。本来ですと、立候補をするときに自分の任期をどうするかということをお話しするのが申し合わせ事項でございました。これも当然、私も確認をしなきゃいけなかったんですが、われわれあの当時はちょうど新しい会派を5人で立ち上げた状況でもございましたし、今、自民党県議団という形で、会派ではもうちょうど1年になろうとしてるわけなんですけど。そのときに、ちょうど5月の改選時期になりましたら、会派のメンバーと相談をしてというお話をさせていただいたように覚えております。そういった意味で本来2年の任期(正しくは、「2年以内」。以降同じ)というのは頭の中にございましたものですから、自分ではそういった思いで立候補したことは事実でございます。実際、その時に判断する、会派5人のメンバーとしっかりと話し合いをし、そしてまた、今後の方向を決めていきたいとこのように考えておりますので、その点よろしくご理解をいただきたいと思っております。

(記者) あえて今回のタイミングで、議長として当時申し合わせ、任期について申し上げてなかったということ、今この場でおっしゃったことの意味ですけれども、いかがですか。

(議長) 申し訳ございませんけども、私この申し合わせ事項があることを、確認

をしておりませんでしたものですから。実際、議長の任期は2年なんだということしか頭の中にはございませんでした。そういった意味で、その当時、1年が経てば、会派のメンバーと相談をして、自分の考え方もお話をさせていただきながら、今後につなげていきたいと考えておりましたので、そういうこととさせていただきます。

(記者) その前提ですけれども。ということで、当初2年だと頭にあったけれども、やっぱりあのときにその意思を示していなかった、ということ踏まえてですけど、来月の役選、どのように臨まれるか。お尋ねすれば、いかがですか。

(議長) 今もお話しさせていただいてますように、会派のメンバーと、この4月に打ち合わせをする予定になっておりますし、その時に、自分の考え方としては、思いというものを、皆さんに、会派のメンバーに聞いていただいて、そしてまた、会派のほうでどのような方向性にしていくかということも含めて、会議を設けることになっておりますので、その点は、今、その当時のことを考えますと、私も議長の任期は2年だというのが頭の中から離れなかったものですから、申し合わせ事項があることも本当に確認しておりませんでしたものですから、申し訳ありません。

(記者) 分かりました。質問の仕方を変えます。会派でご相談なさるということですけれども、議長ご自身としては、2年、今もなさりたいと思っているのか。またもう1年で、というふうに思い直されたのか。ここはいかがですか。

(議長) この5月の役選において、議長に就任をさせていただいて、ちょうど10カ月少し、行動させていただきました。働かせていただきました。本当にこの1年間というのは早いんだなという思いで過ごしてまいりましたし、三重県全体、そしてまた、東京のほうにも、国のほうにも、しっかりと要望活動をしながら、過ごしてきたわけとさせていただきます。本当に1年は短いと。やはり本来は、もうあと1年延ばしてでも、自分の考え方だとかそういった思いを、ちょうど今まで培ってきたものを、今後の県政に反映をしたいなという思いはございます。ですから、まだ1年、もう一度、1年をいくかどうかというものは、判断はまだ今しておりませんので。申し合わせ事項にのっとって本来は言わなきゃいけないのを言わないで、そうしてしまいましたので、すみませんが。だけど本当に1年というのは、もう本当に早く過ぎるんだなという思いであります。今までの歴代の議長さんも、そのような思いがあったのではないかなと考えております。

(記者) 今のコメントをどのように解釈したらいいか悩むところではあるんで

すけど、平たく言うと議長の思いとしては、あと1年やりたいと。個人的な思いとしてであると。1年延ばしてでもやりたいと。

(議長) それは今までやってきたこと、そしてまたこの次の1年で実行していける部分もあるだろうと思っておりますし、しっかりと先ほどもお話しさせていただいたように、県政に反映できるものがあれば、私が役に立つことがあれば、努力はしたいというのは今までの歴代の1年で辞任をされた議長さん皆さんそういうふうにご思っておられるのではないかなと思っております。

(記者) やはり意欲はあるという認識をいたしました、話戻って、そんな中で、なぜ当初、任期が2年だと頭の中にあったということですね、今改めてこの場でそれを述べられたのかという話ですけれども。もし、2年続けたければ、制度上、一旦辞職せずにこのまま任期満了まで、議員のね、議長をお続けになるということも、制度上は可能なわけですよ。

(議長) はい。

(記者) そこをあえて会派と相談するというような形で、意欲があるのにね、相談するという形でまだ判断なされない、なされていない。その理由は。

(議長) 私が立候補するときにおいても、この5人の自民党県議団としっかり協議をさせていただいて、そして方向性を進めて、私が立候補することになりましたものですから、われわれ1人では、当然立候補できるんだろーと思いませんけど、実際に、われわれ、新しい会派ができたばかりだったものから、そういった意味で、会派のメンバーと慎重にやっぱり協議をさせていただいて、前へ、議長選という形で進めさせていただきました。そういった思いがあるのであれば、当然会派のメンバーと相談をして、前へ進めていくのか、そしてまた、新たな正副議長さんにバトンタッチするのか、これは、われわれ、私1人では当然考えられるものではありませんので、その点だけご理解いただきたいと思えます。

(記者) 分かりました。もう1点だけ申し訳ありません。その続きですけれども、一部の議員からですね、服部さんを1年、この5月までということにさせていただいて、残り6期目でまだ議長になっておられない方、交代すると、簡単に言うとね、のがどうかと、そういったことを提案される、そういったことにすべきだという議員の声が他会派から複数寄せられておると思うんですけども、それについては把握されてますか。

(議長) 今お話しされたことに関して、私は何も聞いておりませんし、どのような噂があるのか本当に私ではわかりません。改選となると、政治家というものはどうしても水面下でいろんな考え方をしておられる方がたくさんおみえですので、意見を述べられるのは自由でありますので、その点は私何も聞いておりませんので、申し訳ございません。

(記者) そういう意見があったから、今日の会見で、当初は2年だと思っていましたけどおっしゃったのかなと私が逆に勘違いしてしまったんですが、しません。そうすると服部さんとして、当初は任期2年のつもりで臨んだけれども、表明のときに何年しますということを書いてなかったなということをお気づきになったのはいつごろなんですかね。

(議長) ちょうど3日前です。

(記者) それ、きっかけは何だったんです。

(議長) 事務局からいただきましたので。

(記者) ありがとうございます。副議長にもお尋ねしますけれども、副議長としては、来月の役選はどのように臨まれる。

(副議長) 副議長は申し合わせで1年となっております、それは承知しておりましたので。

(記者) ご退任前の定例記者会見は今回で最後で。

(副議長) いや、5月1日に。

(記者) そうすると、振り返りとか最後のごあいさつ、また次回ということ。

(副議長) そうですね。

(記者) 他よろしいでしょうか。せっかく今日、出席者もあまりいないので、こういうタイミングでガーンと何か、とかいろいろ。

(記者) 事務局に確認させていただきます。表明のときに、何年務めるということをお知らせされるということはですね、これは何かその制度上必要なことであるのでしょうか。事務局に3日前に言われたというふうに、議長がおっしゃった。

(事務局) これ改選が近づいてますもので、正副議長にはいろいろその関係を、ぼちぼち説明は申し上げています。改選に関わる制度であったり、申し合わせであったり。今の2年以内表明というのは、先生方各会派の申し合わせです。制度、規則、規定、そういったものとは違いますが、当然議会運営する上では、申し合わせというのがございますので、こういうのもございますと、そういった説明をぼちぼちと始めている最中とご理解いただきたいと思います。

(記者) 今のご説明ですと、議長が表明時に、何年お務めになるかということをおっしゃられなかったことは、特に問題がないようにも聞こえてしまうんですけども。3日前にどのように聞かれた。

(議長) これはですね、申し合わせ事項というのは代表者会議で決定をされた、平成20年9月2日に決定されたということなんです、これを私が立候補するときに確認をしておりますものですから、議長の任期は2年だよという考え方しかございませんでした。だから、そのときは事務局にもきちっと私のほうから、どうなんだろうかと確認するのが当然だったと今反省をしておりますし、それだったら、私その時に、2年ですと、1年ですと、その理由はですねと話ができんじゃないかと思っております。だけど、私個人的なことなんです、これ自分が立候補するときに、もう私1年でいいですわと言われる方がたくさん見えました。私それはそれでいいのかなと自分では個人的には思っております。2年目もやりたいんだとかいうことがあってもいいのではないかなと。2年にした状況であればですね、議長任期を。だから、私が確認すべきだったのを怠りましたものですから、申し訳ありません。

(記者) 表明をしなければならぬと決まっているわけじゃないけれども、その申し合わせ上では、2年以内という部分だから、2年以内のうち、1年なのか2年なのかというところを表明、当初おっしゃるべきであったという。そういう趣旨ですね。

(事務局) 議長が申し上げたのはそういうことだと思います。

(議長) 多分そういうことだと思います。自分で思い出しますと、そういうことだと思います。

(記者) ありがとうございます。

(記者) よろしいでしょうか。

(議長) よろしいですか。それじゃ、どうもありがとうございました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(以 上) 10時50分 終了